

授業概要

日商簿記検定の2級程度の範囲のうち、会計基準に基づく特殊な論点や連結財務諸表に係わる会計処理を中心に講義する予定である。授業では、取引等の説明が多くなるものの、目標は受講者が実際に会計処理を理解して、記帳できるようになることなので、授業中とはもとより、授業以外の時間でも積極的に演習および復習することを望む。

授業計画

第 1 回	ガイダンスと習熟度の確認テスト
第 2 回	リース会計
第 3 回	外貨換算会計（取引の理解）
第 4 回	外貨換算会計（為替予約・演習）
第 5 回	税効果会計（取引の理解）
第 6 回	税効果会計（演習）
第 7 回	決算整理の復習
第 8 回	純資産（株主資本等変動計算書）
第 9 回	本支店会計（本支店間取引）
第 10 回	本支店会計（本支店合併財務諸表）
第 11 回	連結会計（資本連結）
第 12 回	連結会計（連結会社間取引の処理）
第 13 回	連結会計（未実現損益の消去）
第 14 回	連結会計（連結精算表）
第 15 回	連結会計（連結財務諸表）
第 16 回	定期試験

※ 上記内容はだまかな目安であり、受講者の学習状況をみて適宜範囲や順番を変更することがある。

到達目標

- ・日商2級（商業簿記）程度の会計基準にかかわる内容を仕訳できるようになる。

履修上の注意

- ・少なくとも、初級簿記の単位を取得し、中級簿記を履修していること。（習熟度に関する質問には、第1回目の授業時に回答します。）
- ・日商3級の範囲を修得し、日商2級を積極的に目指す受講生の履修が望ましい。

予習・復習

- ・初級簿記や中級簿記、または簿記検定受験ですでに学んだ内容をあらかじめ復習して授業に臨むこと。
- ・授業で新たに学んだ内容は（参考文献の）ワークブックなどを通して積極的に復習すること。

評価方法

- ・通常講義時の演習30%と定期試験（筆記）70%程度の配分を予定している。
- ・規定の出席回数を満たしていない場合には原則として単位を認定しない。

テキスト

- ・教科書名：『検定 簿記2級 商業簿記』
- ・著者名：渡部 裕巨・片山 覚・北村 敬子
- ・出版社名：中央経済社
- （参考文献）渡部 裕巨・片山 覚・北村 敬子編著『検定 簿記ワークブック 2級 商業簿記』中央経済社